

## 第8回

# 女ひとと男ひとの行詩

男女共同参画社会への認識を深めてもらおうと、身の回りで感じる「男女平等への想い」や「男女差別」などを詠んだ一行詩を募集したところ、全国から2,652点の作品が寄せられました。

数々の力作の中から入賞作品が決まりましたので、ご紹介します。(敬称略)

## 最優秀賞

なぜ刺さる まわりの視線 パパ産休。

福岡市城南区 中村 智

(選評) 育児休業法が施行されて早10余年。なかなか受け入れてもらえない環境の中で、実際に制度を利用しようとしたパパ、ママの苦悩が垣間見え、また、理解してもらえない状況をピリリとひとひねりした快作ではないでしょうか。

## 優秀賞

パートはそれぞれ違うけど 家でも街でも職場でも ぼくらは混声で歌っている。

神奈川県藤沢市 福島 敏朗

昇進祝い パパママどっちと 子が尋ね。

福岡県須恵町 林 智美

## 入選

思いやる 心で手分け 共同作業。

静岡市葵区 杉山 勇

「おーい」には答えぬ妻の構造改革。

佐賀県佐賀市 原 峻一郎

父がいるから出かけられない母、夫がいるから出かけられる私。

さいたま市岩槻区 小山 美佐江

核家族 私とあなたと社会の手 沢山あれば働ける。

下松市 木原 直子

シフト表 明日は主夫か カレーだな。

宮崎県川南町 荒尾 洋一

男女という天の恵みを生かす知恵。

埼玉県朝霞市 金丸 須摩子

ありがとう、そのひとと言で笑顔が生まれる。

和歌山県和歌山市 上野 朋美

## 特別賞

"男だったらそれくらい" "女だったらそれくらい" ふと感じる"それ"の疑問。

山陽小野田市旦西 高木 千穂

女だけ いつでもどこでも あとまわし。

美祢市(川東小学校) 岩崎 香奈

## 男女共同参画週間講演会



- 講師 広岡守穂(中央大学法学部教授, 佐賀県立女性センター館長)
- 演題 「妻が僕を変えた日」
- と き 6月24日(土) 13:30 ~ 15:00
- と ころ 市民館文化ホール
- 聴講料 無料
- 問い合わせ先 市民活動推進課 (☎ 82-1134)